



(様式4)

第11450号

テクノトリアル事業

報告書

依頼者 住 所 岐阜県多治見市笠原町 1647-3
会社名 株式会社加納
氏 名 福田数博
課題名 テラウエル pro タイプ テラフォーコ 109 の臭気吸着試験
実施場所 兵庫県立工業技術センター
実施年月 令和7年4月

本課題についての実施報告は以下のとおりです。

試験体 株式会社加納製 テラウエル pro タイプ テラフォーコ 109

試験結果 別紙のとおり。

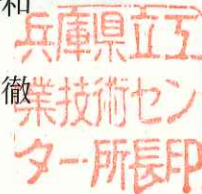
令和7年4月16日

担 当 者

兵庫県立工業技術センター所長

泉 宏和

山崎 徹



(別紙)

試験方法および試験結果

(1) 試験体

試験体の概要を表 1 に、外観を図 1 に示す。なお試験体の詳細は依頼者提出資料による。

表 1 試験体の概要

名称	(株) 加納製「テラウェル pro タイプ テラフォーコ 109」
寸法	幅 109 mm × 長さ 109 mm × 厚さ 6 mm

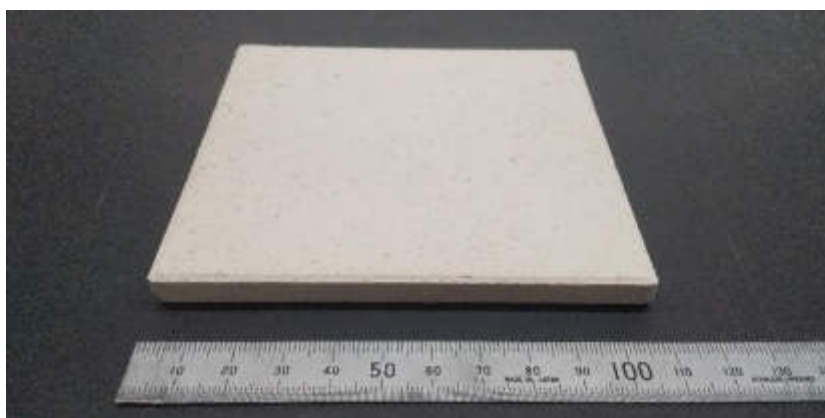


図 1 試験体の外観

2. 試験方法

2-1. 試験用ガスの調整

アンモニア吸着試験に用いる試験用ガスは、25%アンモニア水溶液 10 μ L を入れた容積 10L のテドラー®バッグに窒素ガスを充てんして調製した。

ホルムアルデヒド吸着試験に用いる試験用ガスは、25%ホルムアルデヒド液 10 μ L を入れた容積 10L のテドラー®バッグに窒素ガスを充てんして調製した。

それぞれの試験用ガスについて、ガス検知管を用い、アンモニア及びホルムアルデヒドの濃度を測定した。

2-2. ガス吸着試験

容積 10L のテドラー®バッグに 2 枚の試験体を入れて封をし、2-1 で縫製した試験用ガスを導入し、17°C の室内に静置した。試験開始直後の様子を図 2 に示す。ガス導入から、1 時間後、3 時間後、24 時間後に、ガス検知管を用い

て、試験用ガスのアンモニアおよびホルムアルデヒド濃度を測定した。



図 2 試験開始直後の試験体の外観

3. 試験結果

3-1. アンモニア吸着試験

試験結果を表 2 に示す。なお、検知管の変色の様子を図 3 に示す。

表 2 アンモニア吸着試験の結果

経過時間（時間）	0	1	3	24
濃度（ppm）	128	<1	<1	<1

（“<1” は変色が確認できず、検出下限（1ppm）未満であることを示す。）



図 3 アンモニア吸着試験に用いた検知管の変色の様子

3－2．ホルムアルデヒド吸着試験

試験結果を表3に示す。なお、検知管の変色の様子を図4に示す。

表3 ホルムアルデヒド吸着試験の結果

経過時間（時間）	0	1	3	24
濃度（ppm）	75	6	3	2



図4 ホルムアルデヒド吸着試験に用いた検知管の変色の様子

以上